



- 被爆77周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- 共催・協力・後援事業
- 音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ ピーター・タウンゼントの平和への想い 講演会
- 国際平和シンポジウム ■青少年ピースフォーラム 3年ぶりの対面開催
- ICUの学生4人も活躍 ■「少年平和と友情の翼」で沖縄県訪問
- 「平和学習発表会」で中学生が活動紹介 ■県外原爆・平和展 ■Music Garden Pray&Play
- 被爆77年 ナガサキ原爆写真展 ■第37回 長崎平和音楽祭
- 「平和の文化キャンペーン」イベントのお知らせ ■会員の広場
- TOPICS!(祈念館入館者200万人達成! ほか)



協会サイト



8月13日に開催した「音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ ピーター・タウンゼントの平和への想い」の様子(詳細は3ページ)

被爆77周年 長崎原爆犠牲者慰霊 平和祈念式典



8月9日、平和公園で被爆77周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が営まれ、遺族や被爆者、岸田文雄首相や核保有国6か国を含む83か国（過去最多）の大使らの他、今年は3年ぶりに一般参列者も参列し、約1,700人が犠牲者の冥福と世界平和を祈念しました。

式典の冒頭では、今年が最後の出演と決めた被爆者で作る合唱団「被爆者歌う会 ひまわり」が、「もう二度と」を披露しました。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの合唱でしたが、会員の高齢もあり、今回が最後の登壇となりました。

11時2分の黙祷後の田上市長による「長崎平和宣言」では、核兵器禁止条約への署名・批准を日本政府に求めました。また被爆者代表の宮田隆さんは「平和への誓い」で、自らの被爆体験と現在のウクライナ侵攻を重ね、核廃絶を訴えました。

今年が初めての参列となる岸田首相は、献花を行い、挨拶を述べられました。午後からは現職の総理大臣として初めて、長崎原爆資料館を見学されました。

青少年ピースボランティアは、式典会場の平和公園で参列者に水やおしぼり等を渡し、式典の開催に協力しました。

共催・協力・後援事業

8月9日の長崎原爆の日に合わせて行われた様々なイベントに対し、当協会では助成等を行いました。

8月の共催・協力・後援事業は下記のとおりです。

【共催】 第37回長崎平和音楽祭（長崎平和音楽祭実行委員会）

【協力】 Convergence of Peace Activities（東京大学大学院 渡邊英徳研究室）

【後援】 へいわの絵（生活協同組合ララコープ）

第4回長崎平和祈念茶会（茶道裏千家淡交会長崎支部）

平和の祈りキッズゲルニカinながさき 国際子ども平和壁画展（長崎親善人形の会「瓊子の会」）

第60回原爆忌文芸大会（長崎国際文化協会）

被爆77年連合平和2022ナガサキ集会（日本労働組合総連合会）

2022ピースアクションinナガサキ虹のひろば（長崎県生活協同組合連合会）

Convergence of Peace Activitiesの様子



音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ、 ピーター・タウンゼントの平和への想い

講演会



佐藤洋平さん



松田洋二さん



イザベル・タウンゼントさん

8月13日、長崎原爆資料館ホールで「音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ、ピーター・タウンゼントの平和への想い」を開催し、約110人が来場しました。

第1部では、ピーター・タウンゼント氏が谷口稜暉氏の被爆体験を基に書いた「ナガサキの郵便配達」から組曲を作曲した佐藤洋平氏がクラシックギターを演奏し、声優・松田洋治氏が本を朗読することで谷口氏の生涯に思いを馳せました。

第2部ではタウンゼント氏が来日した際に通訳を務めた田崎昇氏と、タウンゼント氏の長女イザベル・タウンゼント氏が対談を行いました。取材当時の様子や、寡黙だった二人が親交を深めていった様子が語られ、当時の状況を知り、二人の平和に対する想いを感じる時間となりました。

イザベル・タウンゼント氏は最後に、「今回、素晴らしい経験をさせていただいた。私が長年続けている演劇を手段の一つとして、長崎からのメッセージ、核兵器の悲惨さを発信していきたい」と締めくくって閉会しました。

ピーター・タウンゼントさんは3回の谷口稜暉さんの取材をもとに1984年、「長崎の郵便配達」(英語版・仏語版)を出版しました。イザベルさんは当時23歳、父親の作家活動に関心がありませんでしたが、この本を読んで原爆の恐ろしさと谷口さんの勇気に衝撃と感動を受けたそうです。

イザベルさんは映画の製作のため、4年前長崎を訪問しました。この度、映画の全国上映のため来日し、今回の催しが開催されました。イザベルさんは、現在は女優と舞台監督として活躍されているそうで、内に秘めた情熱は父親譲りと感じました。

イザベルさんは今後も舞台を通して平和の大切さを発信し続けると語りました。核兵器使用の危険が憂慮される今日、映画と本が世界の多くの人々に核兵器の非人道性を想起させることを願います。

田崎昇さん



国際平和 シンポジウム

国際平和シンポジウムが7月30日、長崎原爆資料館ホールで開催され、アメリカのシンクタンク「軍備管理協会」のダリル・キンボール会長の基調講演の後、コーディネーターの石合力さん(朝日新聞編集委員)の進行のもとに、パネリストの金淑賢さん(韓国・国家安保戦略研究院 責任研究委員)、樋川和子さん(大阪女学院大学・大学院教授)、吉田文彦さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター長)、和田征子さん(日本原水爆被害者団体協議会 事務局次長)が、ロシアによるウクライナ侵攻の現状から、核戦争を防ぐために核兵器の廃絶の必要性などを討論しました。



また「MZ世代」と呼ばれる若い世代の代表として、辻愛沙子さん(フリーエディター・ディレクター、株式会社arica CEO)と林田光弘さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター 特任研究員)が対談し、一人ひとりが平和や核について話題として取り上げ、伝言していくことで核兵器廃絶への潮流をつくる必要があることなどを語り合いました。





青少年ピースフォーラム 3年ぶりの対面開催

8月8日・9日に開催した青少年ピースフォーラムには、全国の青少年が長崎に集まり、原爆や平和について学び、意見を交わしました。3年ぶりの現地開催となった今年は、28自治体から約250人の青少年が参加し、56人の青少年ピンスポランティアが進行を務めました。

1日目は、被爆体験講話の聴講後、2コースに分かれ、原爆資料館周辺の見学等を行いました。

Aコースは、原爆資料館周辺を巡る「ごんまりフィールドワーク」や長崎原爆についての基礎学習、戦争を疑似体験するアクティビティなどを行いました。

Bコースでは、平和公園・浦上天主堂・山王神社の3コースに分かれてフィールドワークを行いました。実際の被爆建造物等を訪れることで当時の状況や原爆の脅威などを肌で感じました。

2日目は初めて出島メッセ長崎で開催し、全自治体が集まって意見交換を行いました。争いの原因とその解決策を各班で話し合い、平和をつくるには自分たちがどう行動すべきか考え、交流を深めました。

フォーラムの最後には、青少年ピンスポランティアが主体となって撮影や編集を手掛けた2022年度版「千羽鶴」リモート合唱動画を上映し、参加者から多くの反響をいただきました。

【1日目】長崎市平和会館

- 被爆体験講話 (山田一美氏)
- コース別活動
 - A : 室内学習・原爆資料館周辺見学
 - B : フィールドワーク
 - ①平和公園 ②浦上天主堂 ③山王神社

【2日目】平和公園・出島メッセ長崎

- 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- 意見交換会

ICUの学生4人も活躍



ピンスポランティア活動を通して個々の学びに活かす教育プログラム「サービスマス・ラーニング」を実施する国際基督教大学（ICU）から、今年度も学生4人を受け入れ、7月11日から8月10日までの日程で活動しました。

4人は、原爆資料館や追悼平和祈念館、周辺の被爆建造物等の見学や長崎大学での講義などで、原爆・平和に関する知識や理解を深めました。

また「青少年ピースフォーラム」に参加し、青少年ピンスポランティアと共に司会進行やフィールドワークでの案内、意見交換の進行役なども務め、活動を締めくくりました。

4人は今後、ICUで開催する原爆・平和展でも企画運営などに携わる予定となっており、ますますの活躍が期待されます。





「少年平和と友情の翼」で沖縄県訪問

長崎市内の中学生を沖縄県に派遣する「少年平和と友情の翼」を8月18日～20日に実施しました。

研修の目的は、沖縄戦や沖縄の歴史を学び平和の尊さを学ぶこと、沖縄の中学生に長崎原爆の被害を伝えること、友達や先輩との友情や連携を深めること、決められた役割を果たし、約束を守って集団行動をすること。事前研修を経て、沖縄県に出発しました。

沖縄ではまず首里城を訪れ、展望台から那覇市内の地形を知り、司令部壕跡を見学しました。2日目は平和祈念公園の「長崎島の礎」等で献花し黙禱を捧げた後、那覇市立松島中学校の参加者と平和について意見交換を行いました。その後も平和祈念資料館やひめゆり祈念資料館の見学、ひめゆり学徒隊についての講話の聴講や、沖縄戦で実際に使用されていた壕の訪問など、一緒に行動し、交流を深めました。また道の駅かでなでは、大きくせり出した展望台から嘉手納基地が一望でき、町と基地の近さを体感しました。

3日間とも晴天に恵まれ、沖縄の中学生と交流しながら沖縄戦について学び、長崎の原爆を伝え、平和な世界の尊さを感じながら全行程を終了しました。参加者全員が自分の役割を果たし、連携をして当初の目的を達成することができ、とても貴重な体験となったと思います。

【スケジュール】

- 那覇市長 表敬訪問 → ●首里城公園 見学 (西のアザナ、東のアザナ、首里城、旧第32軍司令部壕跡) →
- 沖縄県営平和祈念公園 見学 (長崎島の礎、平和の礎) → ●那覇市立松島中学校との意見交換 →
- 沖縄県平和祈念資料館 見学 → ●ひめゆり平和祈念資料館見学・講話聴講 (尾鍋拓美氏) →
- 糸数の壕 (アブチラガマ) 見学 → ●道の駅かでな 見学 → ●沖縄美ら海水族館 見学

「平和学習発表会」で中学生が活動紹介



8月25日、3年ぶりとなる「平和学習発表会」を開催しました。

「平和学習発表会」は、長崎市内の中学生が、日頃取り組んでいる平和学習の発表をとおして、各学校での活動を発展させる機会とすることを目的に、平成18年度から実施しています。

今年は、市内の中学校23校から、51人の学生が参加し、各学校での平和への取り組みについて発表し、意見を交わしました。また、市内で取り組まれている平和活動についても、沖縄派遣事業「少年平和と友情の翼」の参加者や、青少年ピースボランティアから発表がありました。来場者からは「他の学校の生徒と交流する機会は初めてで、とても有意義な時間を過ごすことが出来た」「今日学んだことを、学校でも広めていきたい」等の感想が寄せられました。

ラウンジコンサート 2022 vol.1
Music Garden Pray & Play



9月3日、長崎県音楽連盟の協力の下、第1回ラウンジコンサートを追悼平和祈念館交流ラウンジで開催し、約50人が来場しました。

長崎に縁のある歌や平和を願う曲で構成されたプログラムで、ピアノや尺八の演奏の他、永井隆博士作詞「南天の花」やブッチー二作曲のオペラなどを4人が歌いました。最後には長崎県音楽連盟にピアノ提供の感謝状を贈りました。

このコンサートは長崎市の「平和の文化キャンペーン」関連事業として実施しており、10月8日、11月19日にも開催予定です。

鳥取県米子市で1年越しの開催
県外原爆・平和展



鳥取県米子市で、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた「県外原爆・平和展」を開催しました。

8月2日～14日の期間中、被災資料や写真パネル約50点を展示し、写真資料調査部長による展示解説や、継承部会員による被爆体験講話も行いました。県内各地から約400人にお越しただき、来場者からは「心に刺さった」、「初めて知ったことがあった」、「子どもには非被爆体験講話を聴かせたいと来場した」などの感想が寄せられました。

(県外原爆・平和展は長崎市からの受託事業です)

音楽部会も運営に参加
第37回 長崎平和音楽祭



8月6日、長崎原爆資料館ホールで、当協会の音楽部会も運営に携わる長崎平和音楽祭が開催されました。今年で37回を数えます。

今回のテーマは「心に響く音楽に あいふれあい いっしょに笑顔…」

リコーダーとチェンバロで奏でられるバロック音楽の音色に、心のやすらぎを感じ、来客者も、リズムを取りながら楽しそうに鑑賞している姿が印象的でした。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中での実施でしたが、音楽の力を信じる平和のメッセージが力強く発信されました。

写真資料調査部会主催
被爆77年 ナガサキ原爆写真展



7月25日～8月5日、追悼平和祈念館交流ラウンジで、写真資料調査部会主催による「被爆77年 ナガサキ原爆写真展」を開催しました。

今回は「ロシアによるウクライナ侵攻により核兵器が使用されかねない今だからこそ、原爆の惨状を見てほしい」という部会員の思いから、人や街の様子を撮影した写真を中心に約40点が選定されました。東京大学大学院の渡邊英徳教授がAI等を活用してカラー化したまきのこ雲の写真の他、大型パノラマ写真や復興の兆しが見える1年4か月後の写真なども展示しました。



平和の文化

「平和の文化キャンペーン」 イベントのお知らせ

長崎市が開催する9～11月の「平和の文化キャンペーン」に関連して、当協会でも下記のとおり、イベントを開催します。是非、ご来場ください。

● ラウンジコンサート「Music Garden Pray & Play」

日時 10月8日(土)、11月19日(土) 14:00～14:45 会場 追悼平和祈念館 交流ラウンジ

● 原爆死没者名簿筆耕 森田孝子書道展「平和への願いを書に託して」

日時 10月22日(土)～10月28日(金) 8:30～17:30 会場 追悼平和祈念館 交流ラウンジ

● 市民のつどい(紙芝居(かわち家)・原爆写真パネル等展示・エコ風船・折鶴・ミニコンサートなど)

日時 10月29日(土) 10:00～13:00 会場 原爆資料館前 階段下広場

● 堂畝紘子写真展「生きて、繋いで 一被爆三世の家族写真一」

日時 11月3日(木・祝)～11月16日(水) 8:30～17:30 会場 追悼平和祈念館 交流ラウンジ

● 長崎国際平和映画祭「ナガサキからNo Warを叫ぶ」

日時 11月6日(日) 10:00～17:40 会場 出島メッセ長崎

No.22



Peace Wing Nagasaki

会員の広場 (拡大版)

第1回締約国会議(ウィーン)と

NPT再検討会議(ニューヨーク)に参加して

ウクライナ侵攻が多くの被爆者に原爆投下の日を想起させ、わたしたち戦争を知らない世代にも原爆や戦争を身近なものとして否が応でも感じさせるようになって既に半年が過ぎました。

このような世界情勢の中で、TPNW(核兵器禁止条約)第1回締約国会議が6月に開催され、さらに8月にはNPT(核拡散防止条約)再検討会議が開かれました。NPT再検討会議はロシアがウクライナ侵攻を受けて紛糾、出された最終文書案に反対し、決裂して閉幕。2015年の前回会議に続き、コロナでの延期期間を含めて更に7年の時間を費やして再び最終文書の採択に至らないという誠に残念な結果になりました。

第1回締約国会議に先立って開かれたICANN市民社会フォーラム、主催国オーストリアによる第4回核兵器の非人道性に関する国際会議はTPNWを実現した自信と想いに溢れる会議で、ここでは日本からの若者たちやICANNに集う若者たちの力を目の当たりにしてようやく新しいウエーブの台頭を実感したのは私だけではないでしょう。第1回締約国会議ではウィーン宣言を高らかに謳い上げて終わったのですが、この後のNPT再検討会議でまた世界の置かれている現実を引き戻された印象でした。

国連の安全保障常任理事国であるロシアが、先頭に立って世界平和を攪乱し危機に落とし入れNPTの場でも対立構図が明確となり、これまで核問題では目立った発言のなかった中国が踏み込んだ発言を行うなど、核兵器国5カ国が不誠実な振る舞いを続けているように見えました。

岸田総理が日本の首相として初めてNPT再検討会議に出席しましたが、存在感を示した発言とは言えない新味に乏しい内容でした。我が国内にあっては危機感に乘じ「核の抑止論をさらに一歩進めよう」とする流れが幻影の如く現れつつあります。

この激動の暑い夏を経験して思うのは、再び長崎から非核の道を再確認し、すべての人がさまざまな立ち位置からできることを創意工夫を凝らして実行し、核兵器廃絶とその礎としての核兵器禁止条約の旗を掲げて一人でも多くの仲間と歩むことに立ち帰ろうということです。

理事長 調 漸

✉ お便りをお寄せください!

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。



PEACE WING NAGASAKI

TOPICS! へいわトピックス

祈念館入館者200万人達成!

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、原爆死没者の追悼と平和を祈る場として平成15年7月に開館しました。開館以来、多くの方にご来館いただき、9月14日に来館者が200万人を達成しました。

200万人目のお客様は神戸市から来崎された親子です。

高比良館長より、入館200万人目の認定証や記念品を贈りました。



長崎市老人クラブ連合会様より、平和推進活動にご協力いただきました。

長崎市老人クラブ連合会様より、ウクライナ支援活動の一環として、当協会が販売するPeaceなねこTシャツ・ねこバッグを多数ご購入いただきました。

同連合会では、老人クラブ会員の皆様に募金額をプラスして商品をご購入いただき、この募金分をウクライナへ支援金として送られるとのことです。

協会の売上金は、当協会が取り組む平和推進事業に活用させていただきます。

※PeaceなねこTシャツ・ねこバッグは、原爆資料館等で購入できます。



「被爆前の長崎の写真」スライド教材を公開

長崎大学核兵器廃絶研究センターと国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化を進めてきました。

昨年7月から募集した、被爆前の長崎を撮影した写真等をもとに、教育現場で活用できるスライド教材が公開されました。詳しくは下記二次元コードよりご確認ください。



RECNA
サイト



「被爆者健康講話」

3年ぶりに祈念館で開催

8月18日、3年ぶりの被爆者健康講話を追悼平和祈念館交流ラウンジで開催しました。

東日本大震災・原子力災害伝承館の館長でもある長崎大学の高村教授に「放射線被ばくと健康影響について」をテーマに、福島の実情と伝承館の紹介も交えて分かりやすく説明していただきました。



世界の核弾頭の数

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2022年6月1日	5,975	5,425	350	290	225	165	160	90	40	12,720

長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 提供 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

寄附者紹介

ありがとうございます

(敬称略)

- ◎ 故・福野 喜代子(遺族) 三十一万三千円
 - ◎ 故・中村 一俊(遺族) 十万円
 - ◎ 故・熊本 健(遺族) 三万円
 - ◎ 白鳥 純子 一万五千元
 - ◎ 松本 由美子 一万円
 - ◎ 吉田 照枝 一万円
 - ◎ 匿名(7件) 五万二〇〇円
- 皆様から寄せられた香典返しや退職祝いなどのご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として活用させていただきます。

会員数報告

- ◎ 維持会員 1,092名
- ◎ 賛助会員 172名
- ◎ 学生会員 11名

令和4年9月15日現在
賛助会員(団体法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援ご協力誠にありがとうございます。
会員拡大にも、協力をお願いいたします。

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。
今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。
お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。か、事務局までご連絡ください。